

玉野市立日比中学校

生徒数 223名 ・ 学級数 9学級 ・ 教職員数 28名（平成27年1月15日現在）

○取組実践のキーワード

学習意欲の向上、学習習慣の確立

○標題（研究主題）

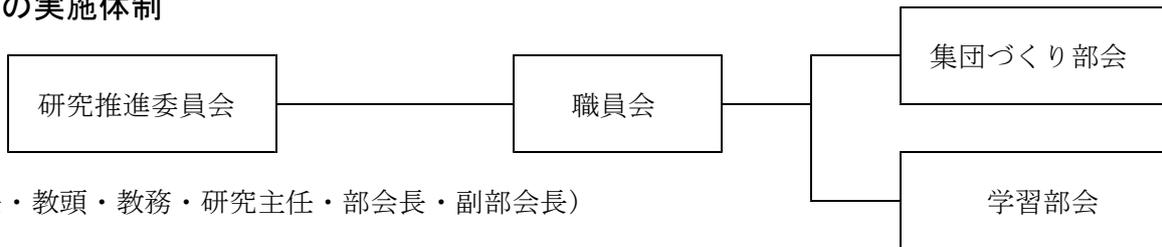
認め合い、支え合い生徒の育成を目指して

～望ましい人間関係づくりを通じた学習基盤づくり～

○取組を始めた経緯

「基本的な生活習慣」「学習習慣」の定着が不十分なため、基礎学力が定着していない生徒が見られる。また、小学校時代の友達関係に固執したり、互いに牽制し合ったりして、人間関係を形成する力が弱い生徒もいる。仲間同士で高め合う関わりができる学級集団づくりを通して、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図っていくこととした。

○取組の実施体制



○学力向上に向けた具体的な取組

(1) 授業力向上に向けた授業研究・校内研修

- ① 年数回の研究授業公開と研究協議
- ② 小中合同での研究授業公開と研究協議
- ③ 授業改善に向けた校内研修
- ④ 授業評価アンケートの活用

(2) 家庭学習習慣の定着を図る取組

- ① 小中合同で作成した「家庭学習の習慣が身につく4つのポイント」チラシの作成
- ② 「自主勉ノート」の実施
- ③ 小中連携しての「ノーメディアデー」の取組

(3) 学習規律5カ条の徹底

- ① 全教室に「学習規律5カ条(チャイム着席・服装を整える・準備物を整える・授業前と後のあいさつをきちんとする・私語をしない)」の掲示
- ② 全教職員での統一した指導、チェック活動の実施

(4) 効果的な補充学習の実施

- ① 少人数にしぼった長期休業中の補充学習の実施
- ② 放課後の補充学習の実施

(5) 道徳教育の推進と特別支援教育の視点に立った徳目指導

- ① 携帯フリーズや紙芝居を使ってイメージ化する徳目指導用教材の作成
- ② 毎週1回朝読書時の徳目指導実施

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

- ① 授業改善に向けての研究協議も充実してきて、効果的な学び合いを行わせるための題材・発問の工夫、ユニバーサルデザイン化に向けての実践等について話し合うことができた。
- ② 小学校での授業参観や合同の研究協議で、きめ細やかな指導の実践や生徒が説明する時の話形の工夫などを吸収することができた。
- ③ 職員会議の時や長期休業中の校内研修時に、他校の授業改善への取組の事例を紹介したり、自校に合った取組を考えたりする時間を確保することができた。

2 課題

- ① 生徒指導面で様々な問題行動が多発したこともあり、授業中の学習規律が十分でなかったため、落ち着いた学校生活づくりが急務である。
- ② 学びから逃避させないためにも、効果的な学び合いの実践をより以上に積み、全教員で共有することが必要である。
- ③ 人として自分を高めていく意欲を向上させるためにも、人として実践すべき徳目指導を続ける必要を感じる。このことが学習意欲へつながっていくと思われる。

○取組の継続・発展の要因

- ① 教員の授業改善への意欲が高まるように、日頃から職員士壌を耕していくこと。
- ② いろいろな実践例を紹介し合い、自校の子どもたち、自分の教科に合ったものに取り組んでいくこと。
- ③ 小学校と連携して、同じテーマで実践を進めたり、お互いの工夫を情報交換しながら進めていくこと。
- ④ 家庭学習の習慣化等に関しては、その大切さを保護者に粘り強く伝え続けながら、自主勉ノートやノーメディアデー等の取組がマンネリ化しないように、工夫や改善をして続けていくこと。

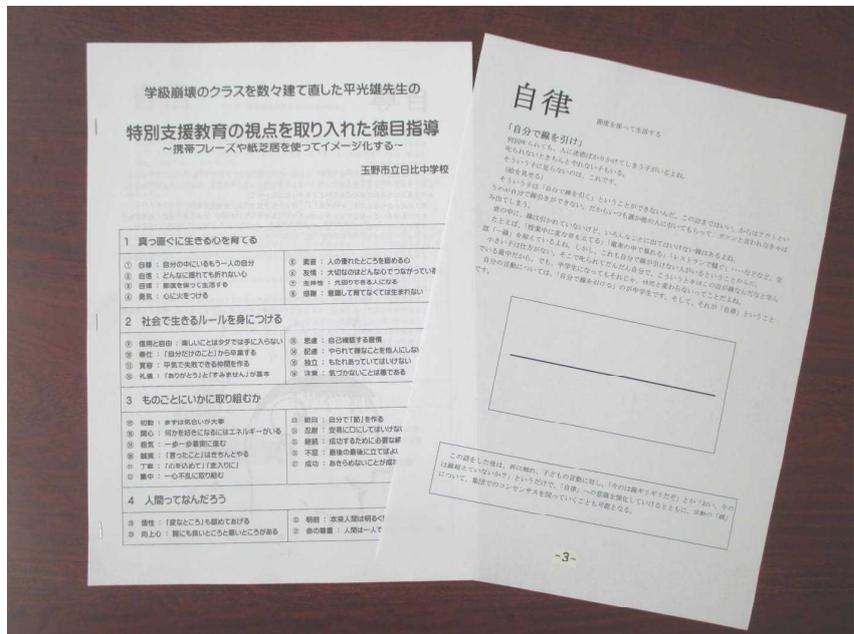
○管理職・中核教員等のアクション

- ① 管理職による授業参観と授業に関する指導助言はもちろんであるが、校内研修や職員会議等いろいろな場面で、先進校の実践事例や各種アンケートから取り組むべきポイントなどを教示していくようにする。
- ② 教員の自己研鑽こそが重要であり、その啓発のため、教員向けの通信「培其根(ばいきこん)」を毎週発行している。
- ③ 学力向上に向けての効果的な取組を実践できるよう、中核教員が周りの教員に熱く語れるよう支援していく。そのためにも、管理職自らが自己研鑽を積むべく、読書や民間主催の研修会等に参加していく。

○その他の資料・写真等



小中合同で作成した「家庭学習の習慣化」に向けた啓発チラシ



特別支援教育の視点を取り入れた徳目指導の教材冊子